

令和元年度 第1回加賀市健康福祉審議会 議事録

日 時：令和元年5月24日（金） 午後1時30分～午後3時

場 所：加賀市市民会館 3階 第13会議室

出席委員：村上、沼田、○河村、川向、◎上出、山下、矢鋪、石川、宮本、西出、宮永
（敬称略 ◎会長、○副会長）

委員定数の過半数に達しているので会議は成立していることを報告する。

開会

議題

- (1)「第4期加賀市地域福祉計画」の策定について
- (2)「第2期加賀市子ども・子育て支援事業計画」の策定について
- (3)「加賀市健やか親子21計画（第2次後期）」の策定について
- (4)小規模多機能型居宅介護事業所の整備について

以下、審議事項の説明は、別紙資料のとおりとし、質疑のみの記載とする。

質疑事項

- (1)「第4期加賀市地域福祉計画」の策定について

村上委員

アンケートの回収率を上げるために何か工夫を行ったか。

41.9%なので、もう少し上げたほうがいいと思う。例えば、事前に広報活動をしたり、期間をもう少し延長してその中間で催促の連絡をする。あるいは、郵送ではなくて地区の方から手渡しするなどの工夫を行ったほうが望ましいと思うがいかがか。

上出課長

これといった工夫はしていない。

回収率を上げることは精度を高めることにもつながると思うので、次回アンケート調査実施のときには検討させていただく。

宮永委員

前回、回収率41%を見て村上委員と同じように、少ないのではないかと聞いた。事務局からは、この地域としては41%は快挙だと言われた。考えてみれば、加賀市民を100と考えたとき80%が地域に元々いらっしゃる方とすると40%はほぼ半分。50%を超えていると考えると素晴らしいと思うが、次回もう少し工夫されてやっていくと素晴らしいアンケート

になると思う。加賀市が消滅可能性都市に宣告されてから4～5年経つのか、人口減少対策室でプラスカガとかネクストコモンズラボ加賀とかいろいろ活躍されている。最初はこんなことやっていて大丈夫なのかと思ったが、仕事の関係で小松に行くと「加賀市すごいね、このごろ上向きだね。」「小松はこれに関しては負けるかもしれない。」という声を聞く。市役所の方はかなり努力されて、こういうアンケートを利用してもっともっと加賀市の人口が増えるように、そうすればもっといろいろなことに影響が出てくるような気がする。

上出委員

アンケートの回収率にはいろいろな考え方・見方があるかと思うが、せめて半分ぐらいは超えてもいいのではないかと思っていた。この種の調査について、他の自治体や、市で行われた他のアンケート等については何か参考になる回収率は把握しているか。

上出課長

他の自治体のものはないが、前回、福祉こころまちプラン2015を作るときに実施したアンケートの回収率よりも今回は若干上がっている。

沼田委員

年代別に、20歳代、30歳代あるいは50歳代ぐらいまでの若い世代がどういう傾向があるか、高齢者の方たちのニーズがどうなのかという、クロス的な集計はされているのか。若い世代が望むことと年齢層の高い人たちが思うことの傾向を調べてあれば教えていただきたい。それから、やはり制度が十分に理解されていないということと、我が丸にいくまでには、なかなか行政頼みだという回答だったのが、まだまだこれからやることはいっぱいあると感じた。

上出課長

クロス集計については、これから計画を煮詰めていく段階において集計し、そこから導き出していこうと考えており、今度審議会がある時にはお出しできると考えている。もう一点、行政頼みというか、福祉の推進には関心はあるけれどなかなか自分から進んでするにはまだ二の足を踏むというような回答が多かったと思っているので、支えあう意識の啓発や理解の促進、周知というものを計画の中に強く盛り込んでいく必要があると思っている。

(2)「第2期加賀市子ども・子育て支援事業計画」の策定について

村上委員

量の見込み、確保の内容・実施時期に加えて、質の検証あるいは評価のような作業を行う予定はあるのか。

奥村課長

計画策定の中で行ってまいりたい。

沼田委員

学校教育・保育の量の見込みは、量の見込みを出す方式がなんとなくイメージはつくが、地域子ども・子育て支援事業の量の見込みはどのような形で算定されるのか。

奥村課長

基本的には現在の利用者の利用状況をまず出して、その中でアンケートの中にも「こういった事業があるがそれを使いたいか」というようなところをお聞きしている。そういった中で推計していくことになろうかと思う。

沼田委員

地域子ども・子育て支援事業は、加賀市がものすごく子育てに力を入れているというのが、ダイレクトに評価につながる部分なので、その意味では量的な評価で十分反映されるのか。あるいは質的な評価というところも慎重にされるといいのかなと思った。ただ、利用者だけのアンケートだと、量的な評価というものがつかみきれぬのか。

奥村課長

たくさん制度がある中で、まずそれぞれの事業の認知度合いもお聞きしている。そのような中で、みなさんが非常によく知っている制度もあり、なかなか知らない制度もある。みなさんにまず知っていただくためにはどうするか、その上でどう使っていただくかということなので、そういったことも踏まえて子ども分科会のほうにお示ししながらご意見をちょうだいしていきたい。

沼田委員

制度として評価するというよりも、基本的にはどれくらいの質的な支援が必要かという視点で調査をすると、本当のニーズ、本当の量的なものが見えてくるのではないかと。例えば、「利用者支援」「地域子育て支援拠点事業」という事業名をどれくらい知っていますか、どれくらい使いますかという話だと、質的な事業なので、そこを量的に評価することの難しさがあると思う。そのへんを国はあまり考えずに書いてあるのではと思う。加賀市はそこをきちんと評価をしてくださると、それはかなりしっかりしたものとして反映されるのではないかと。

奥村課長

子育て応援ステーションなど、直接お声を聞く場面もあり、各種団体などいろいろな方面のご意見をちょうだいしながら計画策定してまいりたい。

宮永委員

加賀市のイベントで、さくらに行ったときに、応援ステーションなのか、保育所関係の担当のリーダーのような方たちがいたが、その方たちはこの支援事業のことをみなさん認知しておいでなのか。言葉もちょっと難しい、もっと噛み砕いてこんなことをしているんだということがわかると、各地域にお母さんたちの組織があると聞いたが、もっと食いついてこられるのではないかと考えた。

奥村課長

今回アンケート調査では、コメントを入れながら調査票自体もかなりボリュームが出てしまったが、ボリュームを考えながらいかにわかりやすく表現していくかということは、本当に大切なことだと思うので、わかりやすくということでもまた対応させていただきたい。

(3)「加賀市健やか親子21計画（第2次後期）」の策定について

沼田委員

健やか親子21は、子ども・子育て支援事業計画と内容が相当リンクするかと思うが、そのへんの位置づけを確認させていただきたい。例えば、参考資料「次世代の健康」3ページで加賀市子ども・子育て支援事業計画と健康応援プラン21の中にこの健やか親子が位置づけられていると思う。これらはどういうふうにお互いにリンクし合っていくのか、もし図が書けるとするとどういった感じになるのか。例えば、健やか親子21ではダイレクトに重点課題の1つに妊娠期からの児童虐待防止対策があるが、地域子ども・子育て支援事業計画とものすごく密接にリンクするところなので、効率よく進めようと思うと、ここはリンクする図式になるのかなと思う。加賀市だけではなく、どこも同じ課題はあるかと思うが。

北口課長

子ども・子育て支援事業計画と健やか親子21計画は、事業内容や課題の整理の部分では対象のライフステージの部分が非常に重なってくると思っている。そういう意味ではそれぞれが実績の内容を掲載しているようなところもあるし、ソフトのサービスや事業に関してはそれぞれの話し合いの中で、計画の中でどのようにして盛り込むかということになってくると思っている。すぐに図という形では説明しづらい部分もあるが、そこは密接に、こども分科会、健康分科会にも参画しながら進めてまいりたい。

沼田委員

健やか親子21ができた平成13年とはいろんな背景がぜんぜん違うと思う。直近の健やか親子21（第2次）は、まさしく虐待予防・防止対策みたいなものが出てくるような時代になっていて、その一方では確かに体づくりみたいな話も出ており、なかなかどちらに足を置くかというのは難しいことだと思うが、過激な意見として、いっそのこと加賀市子ども・子育て支援事業計画の中に軸を移したらどうか。背景が違うのにずっとそのままだという印象があるのでご意見としてお伝えしようと思う。

奥村課長

どこまでできるかというところはあるが、そういったところも意識しながら十分に連携してまいりたい。

宮永委員

2ページの真ん中の「基盤課題C子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」に関して。朝ごはんを食べてこない子どもがたくさんいるということで、地域で子どもたちに朝ごはんを作ろうということボランティアでやってきていて、それがこの中に含まれる部分なのか。なぜかと言うと、人的にはボランティアだが、食材もいろいろなものをいただいて、子どもたちからお金をとっているところもあれば、まったく無料というところもある。そのへんの補助とか、ここに入るのかというのが一つと、子どもを地域で見守る、健康に関する朝の食事はいったいどの部分になるのかということをお聞きしたい。

北口課長

健やか親子21計画の中での課題Cに関しては、例えば育児サークルや児童センターの取組み、そういった育児に関する支援というところで関連してくると思うが、具体的な事業や施策に関しては子育て支援課の子ども・子育て支援事業計画のほうになってくるかと思う。健康課に関しては、成長を見守り育むというところでは、例えば乳幼児健診や親子の遊び教室などの事業で評価をしているということになる。

奥村課長

食事に関して、今現在市内にはわたしどもが把握している中では、児童センターやお寺、あるいは子育て支援拠点施設など5か所程度で子ども食堂というものをやっていたいている。加賀市ではこども未来基金というものがあり、ちょうど募集を終えたところであるが、子ども食堂を実施するにあたって、開設・運営にかかる費用を一部助成するという取組みもやらせていただいているのが現状。そういったことも健康課と連携しながら進めてまいりたい。

(4)小規模多機能型居宅介護事業所の整備について

宮永委員

先ほどの我が事丸ごとに関して、報告。わたしの近所の方は動橋で、介護サービス事業所と家族の方が契約をされて1日3回利用されている。それから、合河地区の方は、松が丘の介護サービス事業所に入られたが、実は契約するまでに民生委員の方に言えばいいのか誰に言えばいいのか、わからなくて困ったことがあった。地域に住んでいる者としては見守りとはいうけれど、家族でないとだめなこともあり、そういう、施設との契約を早くなされた方がいいですよという助言を、誰がどのようにご家族の方にするのか、という部分が引っかかっていた。介護事業所が山中に増えるのは、市民としてはたいへんいいなと思っている。みなさんもありがたいて思っているらっしゃると思う。

山下課長

高齢者の相談という意味では、まず、介護保険料も財源として活用しているこちらの事業所を、高齢者を中心とした窓口として開いている。また、窓口として開いているというだけでは、つながりということはなかなか難しいので、民生委員さんや区長さん、まちづくりの方々にも顔を見ながら協力して少しずつ相談しやすいように、また、相談につながっていないような方と顔見知りになるというところから地道に進めているところ。また、高齢者の相談窓口を開いているが、中には高齢者の担当以外の複合的な課題を抱えた世帯の方もおられるので、そのあたりは関係各課や他の事業所の方々とも協力して相談・支援のほうを進めていきたいと考え、実際取組み始めている。

宮永委員

近所なので応援はしたいと思っているが、やはりどうしても距離があるので、今言ったつながり、これがわかりやすいように工夫していただけるととても助かる。

村上委員

2ページの小規模多機能型居宅介護の整備状況において、必要定員数は2025年の後期高

齢化率の全国推計から算出しているのか。加賀市の高齢化率の傾向からシミュレーションした推計というのはいけないのか。

何が言いたいかというと、加賀市の高齢化率のほうが全国よりもおそらく高い。そうになると、必要定員数はもっと増える可能性があり、もう少し小規模多機能型居宅介護の事業所を増やす必要性があるのではないかという懸念。

山下課長

加賀市の推計の計算はできますし、やってもおります。

ここでは後期高齢者と書いてあるが、まず65歳以上の方の人口推計からいくと、今現在、平成31年度は人数的なピークは過ぎたようなところになってきている。ただ、後期高齢者の方がこれから加賀市でも増えていき、平成39年、今から8年後には13,500人弱というようなピークがくると見込んでいる。今後の示しとしては、まず国が推計値、必要推計値を国の平均で出したので、それになぞって出している。わかりにくくて申し訳ないが、2ページの下の方の真ん中の後期高齢者数に関しては、加賀市の推計値で計算はしていると記憶している。

村上委員

では必要定員数の算出にあたって、どういう計算式になっているのか。

山下課長

国が過去に示した数字を参考に策定しているという状況。

村上委員

どういう数字を用いてこの数値が検出されたのかというのを、少しわからないところがあったので、そこが明確になればと思い質問した。

山下課長

加賀市では人口値から推計しており、国勢調査のほうは高齢者に関しては使っていない。

村上委員

資料を次回以降に補足的にいただければと思う。

沼田委員

少し元に戻るが、宮永委員がおっしゃったことについて、わたしはとても大事なことをおっしゃったなと思った。一番冒頭にご説明をいただいた資料3、加賀市地域福祉計画の策定の1ページ、主な国の動きの「我が事・丸ごと」。今、いわゆる地域包括ケアシステムという概念に関しては、ワンストップで住民が困ったときにはここに駆け込めばいいんだという、その仕組みづくりをやっている。その点では今いろいろ福祉計画の下位にある計画についてご説明いただいたが、これをまとめていって大枠でどこを目指すのかという一番最初の総説のところ、この我が丸を目指す。この部分をタイムスケジュール的にどう組織を編成してどういう形でこのワンストップといういわゆる地域ケアシステムを実現していくのかということが多分今度の国の動きともリンクして、この資料3は実はとても大事だったと思っている。この部分は、ぜひこの福祉計画の目玉と位置づけて、十分に書ききっていただきたいと、最後にご意見申し

上げる。

上出課長

地域共生社会を形成し、それを進めていく、国のほうではあと2年後ないし3年後ぐらいにはそういった形のものを進められないかということで、各自治体等に資料等を提供していただいている。包括的な相談支援体制、ワンストップの一元的な相談体制がやはり求められているという状況。この件に関しては、各自治体も今までやってきた部署からどう一元化していくかという、割と組織的に難しい問題もいろいろあるとは思いますが、できるだけそういったものをクリアしてみなさんがどんなことでもそこに相談すればことが足りるんだというような総合的な窓口というものを将来的に見据えながら、計画を作っていきたいと思っている。